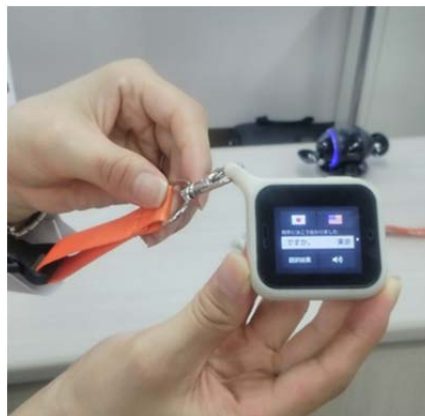


多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩 ICT 最新技術展示会

「多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩」の会場では、講演やセミナーのほかに、多くの団体・企業が、多言語対応の推進に資する最先端のICT機器や技術の展示・デモンストレーションを行いました。その中のいくつかを紹介します。

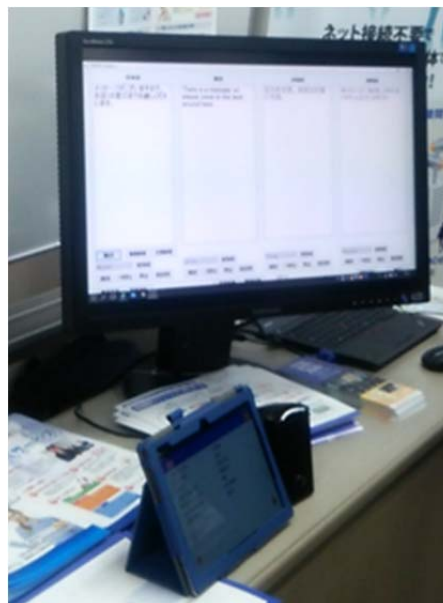
・ウェアラブル型翻訳サービス

接客の場などで邪魔にならない、ペンダント型の小型端末で、音声を認識して翻訳・再生が可能です。通常のスマートフォンのように、Android搭載でWi-Fiに対応しており、翻訳サーバにアクセスして、スムーズな翻訳対応を実現しています。



・多言語自動翻訳音声合成システム

日本語を入力するだけで、多言語の自動翻訳をおこない、ネイティブレベルの自然な音声でテキストを読み上げます。パソコンで簡単に文章を作成し、通訳者やアナウンサーの手配なく、様々な放送に活用できる音声合成が可能です。



・スキャン翻訳サービス

フィーダーから、日本語原稿を読み取ると、データを翻訳サーバに送信し、元原稿の色やレイアウトはそのままに、文字部分だけを翻訳した書類として、出力することができます。



・おもてなしロボット

ロボの顔の前に立つと写真撮影をしてくれたり、表示される QR コードを読み取って写真を手元の携帯端末にダウンロードすることができます。ボディ部分は紙が入る構造なので、施設や催しに合わせて、簡単に着せ替えをすることが可能です。



・光 ID 技術を用いた情報連携サービス

液晶モニターやサイネージの発光に信号を載せて、携帯端末のカメラで読み取ることができる技術です。QR コードのように、正面から適切な距離で読み取りをする必要が無いため、街頭や人の多い場所などでも、簡単に情報取得が可能です。



- ・音のユニバーサルデザイン化支援

日本語で流されたアナウンスの中に仕込まれた非可聴領域の音情報を携帯端末で聴きとって、ユーザーの選択した言語で、端末に翻訳して文字表示することができる技術です。



- ・ウェアラブルグラス型コミュニケーション支援アプリ

外国語への翻訳や、音声情報の文字を、ウェアラブルグラスの内側に表示する技術です。スマートフォン等の端末を手に持たなくても、ハンズフリーで文字情報を読むことができます。



「多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩 ～2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」
参考資料配布：<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/160705forum.html>